

P
R
E
S
S
E
S
S
E
S

東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド

GBFund

企業メセナ協議会



公益社団法人 企業メセナ協議会

108-0014 東京都港区芝5-3-2

アイゼビビル 8階

phone 03-5439-4520 facsimile 03-5439-4521

www.mecenas.or.jp

2016- No.6 2016年6月15日

熊本地震を受け芸術・文化活動に第一回助成決定 「GBFund」芸術・文化による復興支援ファンド

公益社団法人企業メセナ協議会(東京都港区、理事長:尾崎元規)は、「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド【GBFund】」の採択活動を6月13日の選考会で決定しました。あわせて、熊本地震への第一回助成活動も決定しました。

「GBFund」は、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動や、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動に対し、趣旨に賛同する方々から広く募った寄付金により、1件の採択活動につき上限50万円を助成します。

【東日本大震災】5年間助成を継続し、14回目となる今回は10件の多彩な活動を採択、300万円を助成しました。これまでの助成活動数累計は260件、助成金額は累計1億5,015万9,924円に達しています。

※各採択活動詳細は資料ページ参照

▼GBFund 熊本・大分第一回選考で採択された
「〇〇(マルオ)の食卓」展/[公財]熊本市美術文化振興財団



GBFund 熊本・大分ロゴ

【熊本地震】4月20日に「GBFund 熊本・大分」を立ち上げ、今回初めて助成先を決定しました。申請活動10件から3件を採択し、助成金額は合計60万円。『〇〇(マルオ)の食卓』展、「熊本・破壊の創造展示会プロジェクト」、「SASHIYORI Art Revival Connection KUMAMOTO 平成28年熊本地震復興支援事業」と、いずれも被災地の団体や個人が現地の文化活動で勇気づける取り組みが採択されました。当ファンドは、発災直後から寄付者・活動者双方の問合せを受け、東日本大震災の経験をいかし、緊急に設立したものです。

取材のお問合せ | [公社]企業メセナ協議会 広報担当:坂本 msakamoto@mecenas.or.jp
本件に関するお問合せ | [公社]企業メセナ協議会 かるふあん!事務局 GBFund 担当 根本・佐藤華名子・小澤
TEL:03-5439-4520 メール:gbfund@cufun.mecenas.or.jp
〒108-0014 東京都港区芝5-3-2 アイゼビビル8階 URL: <http://www.mecenas.or.jp/>

【選考を経て】

〈東日本大震災〉—災害は一過性のものではない、継続的な寄付が重要—

東日本大震災から5年を経た今も、祭りや伝統芸能といったコミュニティを支える活動など当初から継続する活動が複数あり、災害は一過性のものではなく復興には時間がかかることが指摘された。今回採択できなかった活動も、被災地の復興のうえで欠かせないものが多くあった。被災の記録をアーカイブ化して次世代に受け継ぐなど長期的な視点を持つ活動も出ており、継続的な支援が必要である。

〈熊本・大分地震〉—被災地間のネットワークは全国へ—

発災から2カ月で助成活動の採択となった。早い段階で現地での芸術・文化による復興活動が始まっており、アーティストの活動に心強さを感じるとともに、当ファンドの役割として、現地のヒアリングやスピーディーな助成を心がけた。新たな活動が始まることも予想され、引き続き寄付のご支援をいただきたい。

岩手で被災した団体「大槌虎舞協議会」からは熊本・大分に向けた寄付金が寄せられた。当団体には東日本大震災復興支援としてGBFundから助成をしており、被災地間の支援が生まれている。

東日本大震災では中越・神戸からのボランティアなどが活躍し、さらに今回の熊本地震にも支援が及んでいる。GBFundを通して、記憶の風化を防ぎ、被災の教訓や知恵を他の地域に共有して災害を乗り越えようとする動きが各地に広がっている様子が見えてくる。

【被災地への寄付のご相談・お問い合わせはかるふあん事務局へ】

TEL: 03-5439-4520 E-mail: gbfund@mecenat.or.jp

▼寄付金受付ページ: <https://www.mecenat.or.jp/culfun/>

〈GBFund〉(ジービーファンド、G:芸術、B:文化、F:復興/ファンド)は、芸術・文化による震災復興活動に取り組むために、2011年3月より企業メセナ活動が運営している基金です。

趣旨に賛同くださった寄付者の皆さまとともに、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動を応援します。

【公益社団法人企業メセナ協議会】 <http://www.mecenat.or.jp/>

芸術・文化振興による社会創造を目的として、企業をはじめ文化に関わる団体が参加、協働する民間の公益法人。会長：高嶋達佳（[株]電通会長）、理事長：尾崎元規（花王[株]顧問）。会員169社・団体／25名（2016年6月1日現在）。〒108-0014 東京都港区芝5-3-2 アイセザビル8階

GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)助成活動一覧【第14回】

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
ふくしま 空間の記憶 岩根愛(東京都) 2016年6月14日～2017年6月30日 福島県内の東京電力福島第一原発事故由来の避難区域内ほか	360度回転する特殊なパノラマカメラで、避難者が失った故郷を撮影する。パノラマカメラは、およそ100年前に福島からハワイに移住した日系人が集合写真の撮影に使っていた。福島とハワイ、不思議な縁で導かれた360度回転するカメラで、故郷の空間そのものの追体験となる展示を行う。
住民主体による南三陸町と沖縄・八重山地域との交流促進事業 一般社団法人 COMMONS(宮城県) 2016年6月14日～2017年3月31日 宮城県本吉郡南三陸町	震災後、南三陸町の支援に入った沖縄那覇駐屯の陸上自衛隊隊員が、なにもない避難所の夜に弾いてくれた三線の音色。自分たちも演奏したいという子どもたちの願いから、「サンシンズジュニア」を発足、県内外のイベント出演を通して、被災地のいまを発信する。沖縄のアーティストの協力を得ながら開催する「歌津復興夏まつり」は、地元住民を巻き込んだ運営を目指し、人材育成と音楽文化の向上を目指す。
陸前高田昔がたり共有活動 陸前高田昔がたりの会(岩手県) 2016年6月26日～2017年3月31日 りくカフェ等(岩手県)	陸前高田在住者を中心とした会が主体となり、毎月1回、地域の暮らし・習俗をテーマに地元住民へ出演を依頼。彼らの話を聞き取り、記録に残す公開昔がたりを開催する。内容は映像や文字記録をウェブ公開、冊子にまとめるほか、大学研究室と共同で積み木に貼り付けたQRコードを再生すると音声で流れる「つみ語り」を制作するなど様々なツールで発信に取り組む。
「増山たづ子と東北の記録者たち」展 「増山たづ子と東北の記録者たち」プロジェクトチーム(宮城県) 2016年6月14日～2017年3月31日 アーティストランプレイス SARP(宮城県)、 ギャラリーオブグリット(福島県)	宮城県の文化施設で震災アーカイブに取り組む学芸員が増山たづ子写真展を訪れた際、目の前の現実を自分の手で記録する姿勢が、被災地の活動者たちの姿と重なった。地元アーティストなどから成るチームを立ち上げ、増山の写真と被災地の記録者による作品を仙台、福島で展示し、関連イベントを開催する。あわせて、その様子を記録に残す。「記録者」の存在、彼らの姿勢や葛藤を発信するだけでなく、活動者同士のネットワークも生み出している。
「311ドキュメンタリーフィルムアーカイブ」プロジェクト 2016～3.11映像記録のこれまで、これから 認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭(山形県) 2016年06月14日～2017年03月31日 山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局、山形ドキュメンタリーフィルム・ライブラリー、TONGARI BLDG. kuguru(山形県)	1990年に始まったドキュメンタリー映画祭。2011年より震災を記録した映画作品の発表の場を創出し、上映プログラムを継続的に実施。2014年からは作品の収集・保存を目的としたフィルムアーカイブに着手した。また、上映・ディスカッションイベントも実施し、防災意識の向上や復興プロセスへのアプローチなど次世代に伝えていくプラットフォームを目指す。
手すき和紙工房 潮紙 出前工房 一般社団法人 潮紙(宮城県) 2016年08月07日～2016年11月06日 シェアオフィス SODA、手すき和紙工房 潮紙(宮城県)	工房潮紙は、津波による道具流失で危機となった400年の歴史をもつ「柳生和紙」に新たな価値を付加し、新素材としてブランディングすることで復興へ導いている。今回は原料から和紙ができるまでの工程を8回の出前工房を実施し、参加者が和紙の抱えている継承等の課題を知り、実体験をともないながら和紙作りにかかわってもらう試みを実施。


 郷土芸能を支援する「百祭復興プロジェクト」

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
飯館村の伝統芸能「田植え踊り」継承のための支援活動 いいたてまでの会(福島県) 2016年7月1日～2017年3月31日 飯館中学校、福島市飯野町古民家等(福島県)	飯館村で伝承されてきた田植え踊りを地元の子どもたちが継承していく活動。2017年4月に帰村し、厳しい帰村率の現状下、活動を通して子ども達はふるさとの歴史や文化を学び、郷土愛をはぐくみながら生きる力を養う。村民の分断されたコミュニティの再生へつなげるとともに、村の信仰の拠り所である山津見神社の奉納をめざす。
江名諏訪神社文化伝統保存会「三匹獅子舞」次世代への継承活動 江名諏訪神社文化伝統保存会(福島県) 2016年06月16日～2017年02月24日 江名諏訪神社ほか江名地区内及び折戸地区内・江名小学校・江名中学校(福島県)	1769年頃より始まり、80年前より他地区による代理奉納が行われていたいわき市江名の三匹獅子舞は、震災を機に地域のコミュニティ再生を図るべく2013年より地域の子どもたちによる奉納舞を復活させた。その後も獅子舞と獅子祭を通して氏子衆の意識を高めながら、世代間交流や次世代育成、地域の課題に取り組む。その根幹となる子どもたちへの継承活動。
子ども渡波獅子風流復興 チャイルドネットジャパン(宮城県) 2016年07月01日～2017年03月31日 石巻市渡波地区の各施設(宮城県)	鎌倉時代より続いてきた芸能だが、津波により道具が流失。その後、太鼓と獅子頭が発見され復活を果たしたが、津波の被害が甚大であったため、芸能の復興には至っていない。震災後、こども未来図書館を開館したチャイルドネットジャパンが芸能と子どもたちをつなぎ、伝統行事のお正月の練り歩きを目標に継承する場を創出した。
ヒューマンセレブレーション 三陸国際芸術祭 2016 NPO 法人 ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(京都府) 2016年08月01日～2016年12月31日 青森県八戸市、岩手県大船渡市、陸前高田市、宮城県気仙沼市、新潟県魚沼市、東京都	2020年以降、東北が日本とアジアそして世界との芸能・芸術のハブ機能をもつ“芸術特区”として世界中の人々が集う地域を目指す3回目の芸術祭。内外における郷土芸能を通じた三陸の魅力発信と、三陸の人々が主役となるダンス・演劇作品の創作・発表など、表現活動を通じた強固なコミュニティづくりと豊かな地域生活を築くことを、実践を踏まえて提唱する。

GBFund 熊本・大分(芸術・文化による復興支援ファンド)助成活動一覧【第1回】

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
「〇〇(マルオ)の食卓」展 公益財団法人熊本市美術文化振興財団(熊本県) 2016年07月16日～2016年09月11日 熊本市現代美術館ギャラリーⅢ(熊本県)	200年以上にわたり焼き続けられてきた天草陶磁器の丸尾焼の若手陶芸家ユニット丸尾三兄弟による企画展。震災を受けてギャラリーに展示される器を1人1点持ち帰ることができる展覧会に急きよ内容を変更し実施する。震災で多くの家庭では茶碗や皿が割れ、避難所では紙皿を使う生活という状況で、「豊かな食卓の復活は、熊本の食と文化復興」ととらえ、持ち帰った器で自身の食卓の写真とメッセージを返信し、それを展示する試み。
熊本・破壊の創造展示会プロジェクト 破壊の創造実行委員会(熊本県) 2016年05月24日～2016年08月06日 ギャラリーADO(熊本県)	熊本復興の思いを同じくするクリエイターやアーティスト一人ひとりの特性・特技を生かし、役割分担をしながら実体験にともなったヒアリングを基に演出し展示会をパッケージリングする。強いメッセージを発信しながら次へつなぐ記録を、作品を通して行っていく。
SASHIYORI Art Revival ConnectionKUMAMOTO 平成28年熊本地震復興支援事業 SASHIYORI Art Revival ConnectionKUMAMOTO (熊本県) 2016年6月26日～2017年3月31日 月出小学校の避難所 他8カ所の熊本市内避難所等 (熊本県)	SASHIYORI(さしより)は熊本弁で「とりあえず」の意味。アートを携えて多くの笑顔が生まれるよう、現在、熊本市東区の避難所の状況を調査しながら、9カ所の避難所で演劇の手法で楽しく身体を動かす生活不活発病を防ぐ活動と傾聴を実施している。東日本大震災で生まれた舞台芸術関係者による演劇を用いて東北の復興に寄与する活動、Art Revival Connectionのネットワークにより本活動スタートにつながった。

以上